

1 学校教育目標

○よく考える子 ◎思いやりのある子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「おうかの子」を合い言葉に、保護者・地域との協働で子どもを育てる活気のある学校 ○常に目標を明確に示し、児童の頭と心と体のバランスの良い発達を目指す学校 ○児童一人一人が大切にされ、学ぶ喜びを感じることでできる学校
○児童・生徒像	○年長者を敬い、年少者を慈しむとともに、互いの良さや違いを認め合い、助け合える子ども ○基礎的・基本的な学習内容と生活習慣を身につけ、進んで学習する子ども ○常に目標をもって、健康の増進や体力の向上に努める子ども
○教師像	○常に自己啓発に努め、指導力や授業力の研鑽に努める教師 ○深い児童理解と教育愛に満ち、児童・保護者・地域に信頼される教師 ○組織的に協働し、教育効果を高める職務行動の高い教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【児童について】

- ・基本的な生活習慣の定着が進んできているが、遅刻者や欠席者の固定化も明確になってきている。
- ・全学年、自己肯定感が向上してきており、明るく素直に落ち着いた生活を送っている。
- ・通常学級における支援を要する児童の割合が高く、人的支援が必要である。

【教職員について】

- ・学力定着、生活指導の中心であった主幹教諭、主任教諭が異動となる。異動者の経験と能力を校内に一般化させ、組織的に対応できるシステムを整える必要がある。

【保護者・地域について】

- ・学校の経営計画や課題を理解し、開かれた学校づくり協議会を中心に、PTAOBやPTA役員も積極的に支援体制を組んで参画している。学力定着を支援する取組として成果を上げている。

【前年度の成果と課題】

①基礎・基本の定着

- ・「桜花ステップアップテスト」による当該学年で習得すべき内容の8割を定着させる目標については達成。ポートフォリオ、SP表に基づく学力調査結果の分析。未達成・つまずきのある分野については放課後の補習、土曜日授業、桜花基礎学習教室等で対応した。
- ・保護者への啓発として家庭学習週間を設定し、家庭学習時間の確保と宿題の提出率向上。

②自己肯定感の向上

- ・読書活動、人権を大切にする教育や挨拶運動、「一日一賞賛運動」を進め、心豊かに生きる力をつけることを重視した。最終効果測定方法は、自己肯定感調査で行った。9割の児童が自己の価値を認めることができた。

③健康な体づくりと体力向上

- ・基本的な生活習慣は向上している反面、流行性疾患・猛暑・土曜授業日の欠席数の増加が原因となり、目標の欠席者の減少は達成できなかった。
- ・体力調査結果で課題となっていた「ソフトボール投げ」の飛距離を伸ばす運動の場の工夫及び、投てき方法の指導を行うことで、課題解決に取り組んだ。

④小中連携活動の推進と学力向上

- ・授業研究、研究授業に向けての事前研究など、小中の学びが連続する取組の推進。授業のスタンダードを作成し共有することや言語活動を重視した教科授業研究を行い、指導法の工夫を図る指導計画の連結表を活用した。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		25	26	27	28	29
1	学力向上（基礎的・基本的な学習内容の定着）	○	○	○		
2	心の教育の充実と自己肯定感の育成	○	○	○		
3	小中連携の推進と学力定着	○	○	○		

5 平成27年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上（基礎的・基本的な学習内容の定着）
-------------------	-----------------------

A 今年度の成果目標	平成27年度区学力調査 目標通過率（学校平均）
基礎的な学習内容の定着を図り、区学力総合調査の目標値の通過率を上げる。	全校平均の通過率を72%とする

B 前年度の取組み内容	
項目	具体的な方策
80%の内容を80%以上の児童に対して定着を図る。（国語・算数）	国語は、3年以上TT・少人数指導。 課題である説明文の読解・単元を貫く言語活動を重視。 算数は、3年以上習熟度指導。 ポートフォリオ、SP表を基に担任補習で単元テストの躓きを解消。
桜花ステップアップテストを活用して基礎学力を定着させる。	小テストやまとめテストを実施し、個人カードに記録して家庭に周知し連携する。 全教員によるスキルタイム指導の実施。
前学年の躓きの解消を図り、基礎学力を向上させる。	7・12・2月に学力向上委員会で各学年の進捗状況を把握し必要な修正。学年ごとに曜日を決め、全教員による放課後補習指導の実施。 土曜授業学習ボランティアの活用促進。 開かれた学校づくり協議会委員の協力による「桜花基礎学習教室」による補習指導の実施。
つまづきを解消し、学習意欲を向上させるそだち指導	対象学年の国語・算数において延べ20名の入塾・卒業エリア校として近隣校への本校を会場とした研修会10回実施し、近隣校での円滑な導入に資する

C 前年度の成果と課題

<p>【再校内学力調査の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月期比較で全校平均正答率は3.2上昇。目標値の通過率は、81.3P。教科別の正答率では、国語4.3P、算数2.1P向上。通過率では、国語11.5P、算数3.9P向上。正答率・通過率ともに80点を超え、つまづき部分の解消が進んで学習内容の定着が進んできた。27年度は、前学年の躓き解消に力を入れる取り組みを前期中までに完了し、後期は、当該学年の躓きに焦点を縛って実施する。 ・1月末現在における単元テストの80点以上の達成率は、国語84%、算数80%であり、ともに前年度より定着が進んでいる。 ・当該学年の基礎的な内容の定着を図る「桜花ステップアップテスト」も1月末では、国語95%、算数94%の達成率である。 <p>【家庭学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の家庭学習時間の平均値では、年間3回の調査結果のいずれも全学年が達成している。未提出児童は固定化しており、担任の支援で放課後に完全実施させることや「桜花パレット」を利用して宿題を実施している児童も多い。家庭の支援が十分とは言えないため、開かれた学校づくり協議会委員等と協力して習慣を根付かせる努力を継続する。 <p>【これから】</p> <p>4年続けて構築してきた向上策であるため、その間の効果の検証もできている。根気よく継続していくことで基礎学力の定着は確実に積みあがっていく。2年後の28年度に6年間継続した積み上げの検証を行うことが必要である。</p>
--

D 今年度の目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策

「桜花ステップアップテスト」を活用して、国語・算数の基礎学力を定着させる。	○80点合格、全児童の9割以上の達成。	○全教員によるスキルタイム指導の実施。 ○小テストやまとめのテストを実施。 ○結果を個人カードに記録し、家庭へ知らせ、連携する。 ○図書室の放課後学習タイムも活用。(学生授業ボランティアの活用)
国語及び算数の単元テストの正答率・通過率を上げる。	○8割の内容を8割以上の児童に定着させる。	○4月学力調査結果をSP表分析。 ○放課後補習学習計画を作成。 ○個人学習カルテの見直しと修正。 ○学年ごとに曜日を決めて、全教員による放課後補習指導。 ○7月・10月の学力向上委員会で各学年の進捗状況を把握し、修正策を立てる。 ○そだち指導とも連携体制をとる。
前学年のつまずきの解消を図り、基礎学力を積み上げ、当該学年の定着度を上げる。	10月校内調査を行い比較 ○国語・算数 全校平均 総合10P向上 2月に校内調査を行い測定 ○国語・算数の正答率80%。 国語・算数の通過率75%。	○ポートフォリオをもとに定着率の低い項目や内容を洗い出す。 ○10月、学力向上委員会で放課後補習計画をたてる。 ○学年補習日・図書室補習等を組み合わせ、全教員が協力して補習指導にあたる。(学習支援・学生授業ボランティアも活用する) ○そだち指導とも連携体制をとる。

重点的な取組事項－2	心の教育と自己肯定感の育成
-------------------	---------------

A 今年度の成果目標	達成基準	
自分の価値を認め、他人と円滑なコミュニケーションをとることのできる児童の育成	○児童アンケート調査、総合85%以上。	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
あいさつ習慣の定着を図る。	登校下校中に学校外で出会った人に自分から挨拶する80%	全校児童朝会で「挨拶応援隊」を表彰して、意識を高める 応援隊の人員を5人以上増員。 年2回振り返り調査を実施。
人権教育の推進と交流活動の推進	高齢者との交流4年以下完全実施。 副籍制度を活用した特別支援学校との交流を2回実施	2.4年の高齢者施設への訪問。 ふれあい給食への高齢者の招待。 城北特別支援学校、南花畑特別支援学校児童の直接交流(体育、音楽、図工等)
豊かな心を育み言語活動を高める読書活動の推進	低学年120冊以上 中学年35冊以上(3500p) 高学年30冊以上(4500p)	週3回の朝読書時間の設定。 担任や図書ボランティアによる読み語り、全学級2回以上の実施。 読書カードへの記録指導。 達成者の学年末表彰。

重点的な取組事項－3	小中連携の授業研究で伸ばす 思考力・判断力・表現力
-------------------	---------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	
連結表をもとに、選択教科の課題となる項目を強化する指導方法の工夫と学びが連続する。	連結表をもとにしたスタンダードの作成。 27年度は家庭学習に関するスタンダードを作成する。	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
連携授業研究会を通じた指導法の工夫。	年間10回の協議会を設定	管理職と推進者で、連携会議を年4回実施し、進捗状況を確認し推進する。 研究担当、教務主幹間で授業研究会の日程調整をする。

		言語活動を重視した授業展開の手法を体系化する。 ブロック責任者が教科連携推進者となり日常的に連絡を取り合う。 指導案作成の段階から担当者間で連携をする。
授業交流の推進	北中英語科と本校外国語活動の交流を推進	花畑北中学校英語科教員によるゲストティーチング。年間3回実施
学力向上連携スタンダードの作成。	家庭学習スタンダードの作成。	授業規律、授業展開、家庭学習のスタンダード作成を目指したが、未完成。 連携授業研究会において「家庭学習スタンダード作成」を教務主幹と研究主任が、調整役となってすすめる。